



発行 日本共産党
春日部市委員会
春日部市中央
7-10-9
電話 736-9933
FAX 736-9991

3月定例
議会閉会

学校給食費無償化等の予算修正案 力を合わせ実現しましょう

19日(木)、3月定例市議会が討論・採決をおこない閉会しました。市長提案の36件はすべて可決されました。

日本共産党は、27件に賛成し、20年度一般会計予算や、国保税賦課限度額を93万円から96万円に引き上げ、市立ふじ学園(児童発達支援センター)への指定管理者制度導入など9件に反対しました。

日本共産党は、学校給食費無償化や、国保税18歳以下の均等割(4万4100円)免除など20億3795万円の予算修正案を提案しました。否決されましたが、引き続き

なさんと力を合わせて実現できるまで頑張ります。

軽すぎる責任

市長・副市長の給料減額

追加議案として、「残業手当未払いの責任を負うとして「市長給料10%2か月、副市長10%1か月減額条例」が提出されました。

日本共産党は「市長は19万6400円、副市長は8万3200円の減額である。職員の損害額に比べてあまりにも軽い責任の取り方と言わざるを得ない。2年間の時効で多額の未払いによる損害を与え

た責任は重大である。また、法令違反と知りながら長年放置してきた管理職にも責任がある。確認できる未払い分は全額支払うとともに、職員数を大幅に増やして残業を縮減すべきである。」と反対しました。採決の結果、可否同数で金子進議長が可としました。

補聴器購入補助は

難聴者の切実な願い

かすかべ生活と健康を守る

会から「補聴器購入補助を国に求める請願」が提出されました。(要望署名1532筆)
日本共産党は、「補聴器の価格は20万円程度で高額です。高齢になっても生活の質を落とさず、心身とも健やかに過ごすことができ、認知症の予防、健康寿命の延伸、医療費の抑制にもつながります。」と賛成討論を行いました。
なお、6月定例議会は、5月29日(金)開会予定です。

補聴器購入補助を国に求める請願
新型コロナウイルス対策の意見書

議案	市長・副市長の給料減額		国保税賦課限度額引き上げ		市立ふじ学園に指定管理者導入		20年度一般会計予算修正案	
	賛成	反対	賛成	反対	賛成	反対	賛成	反対
20年度一般会計予算	●	○	●	○	●	○	○	○

議案	市長・副市長の給料減額		国保税賦課限度額引き上げ		市立ふじ学園に指定管理者導入		20年度一般会計予算修正案	
	賛成	反対	賛成	反対	賛成	反対	賛成	反対
20年度一般会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○

議案	日本共産党(6)	新政の会(9)	※未来の会(8)	公明党(6)	☆NHK(1)	無所属(1)
市長・副市長の給料減額	●	○	○	○	○	○
国保税賦課限度額引き上げ	●	○	○	○	○	○
市立ふじ学園に指定管理者導入	○	○	○	○	○	○
20年度一般会計予算修正案	○	○	○	○	○	○
結果	○	○	○	○	○	○

加齢性難聴者に 補聴器購入の補助を

3月定例市議会に生活と健康を守る会から「加齢性難聴者のための補聴器購入助成制度の創設を求める意見書提出」の請願が出されました。

超高齢社会に 補聴器は必需品

聴力は30歳代から衰え始め、70歳で3割、80歳代になると6割が「加齢性難聴」になると言われています。聞こえにくくなると、コミュニケーションが減り、認知症のリスクが高くなっています。アルツハイマー病国際会議でも「難聴対策は認知症を予防する一番大きな因子」と報告されています。

難聴対策に最も効果的なのが補聴器で、日本のような超高齢社会では補聴器は必需品と言えます。しかし、雑音の中から必要な音を聞き取るためには、片耳10万円程度の補聴器を両耳に装着する必要があります。誰でも気軽に購入できる金額とは言えません。

広がる 自治体の独自補助

東京都足立区では、2020年度予算に補聴器購入費助成が新規事業として計上され、ひとり2万5千円を680人分で1700万円の予算が付きました。また、江東区では、高齢者に

補聴器を支給する制度があり、昨年12月までに557人に支給されたということです。

こうした自治体独自の補助が広がっていますが、一部にとどまっているのが現状です。自治体任せでは、小規模の自治体は取り残され、自治体の財政規模の違いが住民の健康に格差をもたらすことになりかねません。国の責任で補聴器購入助成制度を設けるべきです。

今こそ声をあげ 運動を広げよう

国は、2019年度から自治体が「貸し出し用ヒアリンググループ」を整備した際に費用の2分の1を補助する制度を開始しました。「ヒアリンググループ」とは、難聴者の聞こえを支援するための設備です。公共施設

などの床に磁界を発生させるアンテナを這わせ、音声をそのアンテナに電気信号として送ります。それを難聴者は磁気コイル付きの補聴器を通して、騒音・雑音に邪魔されずに目的の音、声だけを正確に聞き取ることができます。

また国は、すべての自治体にヒアリンググループの設置状況の調査と難聴者のニーズ調査もおこなっています。「聞こえない」を放っておかない国の取り組みが始まっています。憲法第25条「すべての国民が健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」を保障し、SDGsが掲げる「すべての人々に対する質の高い必須の保健サービスのアクセス達成」のために、国による加齢性難聴者のための補聴器助成制度の創設を求めて、声をあげ、運動を広げましょう。



市立医療センター Tel 735-1261(夜間毎日、土・日・祝日)内・外科系 小児救急電話相談 #7119
3/29(日) 春日部さくら医院(内科系)粕壁1-4-8金崎702-1 電話746-7071 安達医院(小児科系)
栄町3-287電話761-6398 みやざわ耳鼻咽喉科医院(外科系)中央1-52-8 電話745-8733
4/5(日) 春日部厚生クリニック(内科系)下蛭田125-1電話754-4313 グレース家庭医療クリニック
(小児科)大倉610-10電話718-0107 わかば耳鼻咽喉科(外科系)中央1-11-4電話763-0908